



酒匂の清流

令和4年7月1日(金)発行

校長 津田 将美

多角的に 学ぶ

多面的と多角的、という2つの言葉があります。
この言葉の意味の違いがわかりますか？



4年生算数研究授業「小数のしくみ」

先日行われた校内研究会で、ご指導いただいている講師の先生より、このような問いが私たち職員にありました。「『多面』と『多角』…？違う面から見ることと、違う角度から見ることに、違いがあるのかなあ…。」

何となくニュアンスの違いはわかっても、うまく言葉で説明できません。

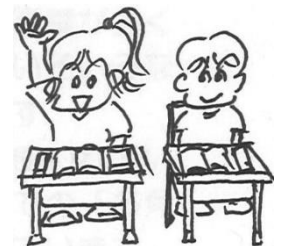
講師の先生は、わかりやすく説明をしてくださいました。

「多面的」と「多角的」は使われ方は似ていますが、「多面的」がものごとのいろいろな「側面」についての言葉であるのに対し、「多角的」は「視点(立場)」に関係する言葉だということでした。本校の研究する「算数」の学習指導要領には、「多面的」という言葉が多く使われていますが、「多角的」という言葉は出てきません。算数という教科は、いろいろな側面から考えて、それらを検討しながら問題解決をしていくことが大切だからです。

一方社会科の学習指導要領では、「多面的」以上に「多角的」という言葉が多く使われています。これは、社会科という教科が「多角的に考える」特性があるからです。社会科での「多角的に考える」とは、子どもたちが複数の立場や意見を踏まえて考えることを指しています。小学校社会科では、学年が上がるにつれて徐々に多角的に考えることができるようになることが求められてきます。

少し話が難しくなりましたが、松田小学校の研究テーマ「『分かり合う喜びのある授業の創造』～見て聴いて 考えて つなぐ学習を通して～」で、校内研究を推進するためには、算数であっても「多角的」に学んでいくことも大切ではないか、というご示唆には、とても共感するものがありました。

算数ですから、問題をいろいろな側面から考え、話し合いながら正しい答えを見つけていくことはもちろん大切です。しかし正解は出せなくても、「ここまで考えたけど、ここから先はわからない。」



「算数は苦手だけど、ひとつひとつ数えていったらこんな答えが出たよ。」

「自分で一生懸命考えたけど、答えが間違っちゃった。どうしてだろ？」

そんな一人ひとりの問題解決に向けての「立場」を糸口に授業を進めていくことができれば、「分かり合う喜び」を子どもたちに実感させることができるのではないかと思います。

「最初はわからなかったけど、みんなで話し合ったらわかるようになった。」

「わたしの考え方は、ここまではあっていたけど、ここから違っていったんだな。」

「わからないことでも、あきらめないで考えることって楽しいな。」



授業の最後に、子どもたちがこんなことを感じてくれたら素敵だな、と思います。

多角的に考えることは、相手の立場を思いやること。そのことができれば正解や真実に近づくだけでなく、もっと人として大切な生き方や問題解決の道へと続いていくはずです。

教科の特性を越えて、そんな授業を目指していきたいと思います。

例年行われている5、6年生のプログラミング学習には、立ち上げからお世話になっている永山さん、中出さんという方々に加え、立花学園の生徒や保護者の方々がボランティアとして参加してくださっています。子どもたちは意欲的に学び、自分でどんどん進んで工夫を加えている子もいますが、やはり難しい部分も多く、支援をしてくださる方がたくさんいることで、とても助かっています。

立花学園のみなさんは、本当に親身になって支援してくれて、時には一緒になって悩み、考え、できた時には共に喜んでくれます。そのようなほのぼのとした学びの空間になっていることを本当にありがたいと感じます。

保護者ボランティアについても随時募集中です。興味のある方はお気軽に学校までお問い合わせください。

子どもたちと共に一生懸命がんばる姿、励まし合いながら前に進む空間を共有しませんか？



9月30日（金）に予定されている神奈川フィルハーモニー管弦楽団によるコンサートのためのワークショップが開催されました。

実は昨年度もワークショップは行われたのですが、コンサート当日が「まん延防止」の期間にかかってしまい、涙を吞んで中止しました。そんな事情もあり、今年度も応募に伝えていただいて、本当にありがたいことだと思います。

ですから、1年生以外は2度目のワークショップです。プロの演奏者の伴奏でボディーパーカッションをする子どもたちは、本当にうれしそうに、楽しそうに参加していました。気温が高く、早めに終了となりましたが、たくさん子どもたちが満足そうな顔をして教室にもどっていきました。

本物にふれる貴重な機会となるでしょう。

本番が、今から楽しみです。



生きものとともに

ICT機器活用等研究連絡会

松田町のICT機器活用等研究連絡会が本校で行われました。昨年度に引き続き、寄小学校とオンラインで結ばれた4年生の授業でした。

今年度は「新校舎を伝える」という目的意識と「寄小学校の友達にわかりやすく伝える」という相手意識をしっかりと持って学習が進められました。直線距離で5.7kmほど離れた寄小学校の仲間との、とても有意義な学び、交流ができたと感じました。



「校長先生見て、ここで綱渡りができるよ。」2年生が宮下公園に向かう途中で、うれしそうに手づくりのダンゴムシさん用の迷路を見せられました。生活科「生きものとともに」の学習です。

暑い中でしたが、子どもたちは日陰で一生懸命ダンゴムシを探し、手づくりの迷路を散策してもらっていました。この日は虫かごのない子は、キャッチ&リリースが原則でした。

「葉っぱのベッドの上にね、そっと戻したよ。」生きものへのやさしい想いがふくらんだ、豊かな時間でした。

